

2017年度（第15回） 建築・住宅技術アイデアコンペ

提案タイトル	働き方改革で「あいまい」となる職場・住空間に関する研究会	
提案概要 (200字程度)	<p>我が国は、少子高齢化・人口減少による人手不足が顕在化し、政府による「働き方改革」が経済全体の活性化に資するものとして推し進められている。</p> <p>働き方改革は、テレワークなど具体的なアイデアや、コワーキングスペースなどの新しい空間の提案がされているものの、それに対する職場空間、住空間は整っておらず、従前の空間の中で行われている状態である。</p> <p>本研究会は、働き方改革により変化し、その境界が「あいまい」となる職場空間、住空間の新しい姿の研究を行う。</p>	
提案ポイント	①新規性	平成19年に知的生産性研究委員会が設立され、建築空間部会にてワーカーと建築空間の関係が明らかにされている。他方、働き方改革（政府主導の第1回働き方改革実現会議が平成28年9月開催）は、改革自体の提案あるいは効果は示されているものの、改革に対応した空間提案までは行われていない。職場空間、住空間は働き方改革という変化にどう対応するか検討が必要である。
	②実用性	上述の通り、働き方改革は我が国が取り組むべき問題であり、それに対応した空間の実用性は非常に高い。
	③異業種関連度合	空間提案には、ゼネコン、ハウスメーカー、設備企業、内装・家具製造業、素材製造企業の協業が必要であり、IOT、AIの検討には情報機器・通信機器製造企業の協力が求められ、異業種の関連度合は高い。
	④建築や社会に対するインパクト	働き方改革をもとにした新たな空間提案は、新しい付加価値を生み出し、インパクトは大きい。

(1) 働き方改革でのヒトコマ

テレワーク (40代男性の場合)

テレワークデー。

さほど乗り気でないものの、社内での発令『管理職以上は全員テレワークを義務付ける』により、否応なしにテレワークでの作業。

通勤時間がないことでゆっくり寝ていられることが救いか。

自分の部屋がないので、ダイニングテーブルで仕事。

妻のかける掃除機の音が気になる。

(妻も、友人を家に呼んでの定例ランチ会をキャンセルさせられ機嫌が悪く、掃除機の動きも若干激しめ・・・)

空間提案
の

やろうと思っていた仕事の資料を会社に置いてきてしまった・・・。

どうしよう。こっそり会社に出社するか。

ただ、会社に入るにはセキュリティカードの承認が必要で、テレワークデーなのに会社に行くことがわかってしまう。どうする。

そもそも大量の資料を持ち運ぶことに無理がある。

持って帰ってきて家にも置いておくんだ。

データにするにしても大変だし、タブレットで見るにも限界があるぞ。

空間提案
の

部下の奴らはちゃんと家で仕事をしているのか。

動画サイトで動画見ながら仕事してるんじゃないだろうな。

資料がないのでこの仕事はできない。別の仕事をするか。

ただ、この別の仕事は社外の〇〇さんと打合せをしながら進めたいな。

電話とメールだとなかなか伝わりづらい。

〇〇さんもテレワークかなー。どこで打ち合わせしよう。喫茶店か。

でも、打合せをオープンな場でするのも、他の人の目が気になるな。

空間提案
の

お、この資料、間違えてないか。

××に確認しないと。でも、大した間違いじゃないんだけどな。

電話するまでも。どうする。電話するか。電話するまでも。どうする。電話するか。

・・・出ない。

あいつ、ちゃんと仕事してるのか。

・・・動画サイトで動画でも見るか。

あー、なんだか**テレワークって孤独**・・・。

空間提案
の

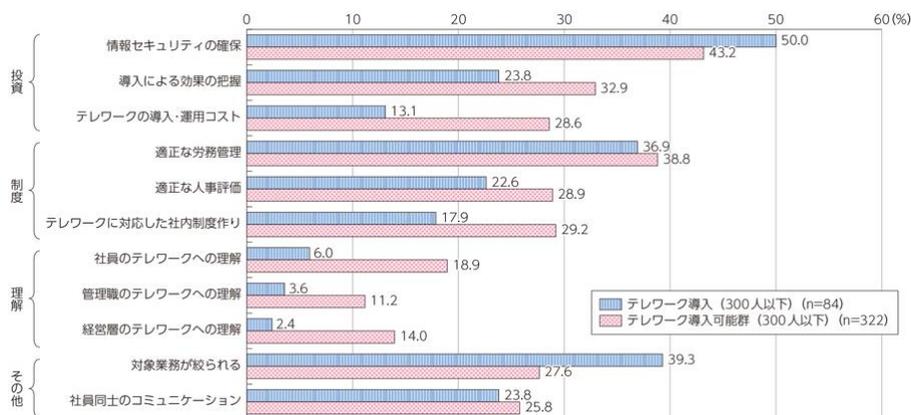


(2) 問題提起・仮説

テレワーク、コワーキングスペース(シェアオフィス)、フリーアドレス、スタンドアップ・ミーティング、IT ツール(IOT、AI)活用、アウトソース活用、リモートワーク、女性活躍推進、ダイバーシティ・・・、働き方改革実現のため、様々なアイデアや取り組みが挙げられている。

しかしながら、そのアイデアや取り組みに適切に対応した職場空間・住空間は整っておらず、従前の空間の中で行われている状態である。確かに一部、コワーキングスペース(シェアオフィス)を活用した企業は存在するなど取り組みもとにした空間設計はされているものの、大多数の企業は、既存のオフィス環境にて勤務をしている。

たとえば、テレワークひとつにしても、課題・問題点は山積している。新しい概念である働き方改革について、すべてを解決することはできないが、現状の空間による無理、問題点、ひずみを新たな空間づくりで解消できることがあるのではないかと。



テレワークの導入にあたっての課題、導入するとした場合の課題(複数回答)
(出典)総務省「ICT 利活用と社会的課題解決に関する調査研究」(平成 29 年)

働き方改革は、多様な働き方を可能とすることを目的のひとつとしている。多様な働き方を可能にするためには、今まで決められた職場でしかできなかった業務を、移動空間などの隙間空間で行うこと、家庭空間や新たな職場空間で行うことなど、既存の職場空間の境界を「あいまい」にすることによって、それまでになかった働き方をする必要が有る。その「あいまい」となる空間には、それぞれの働き方にあった「新しい姿」があるのではないかと。

(3) 研究方法、研究内容

- ①『働き方改革』とはなにか。体制、制度の情報収集。
- ②新しい働き方、新しい職場空間の実態調査、分析。そこに求められる空間、要素とは。
- ③求められる空間、要素の実現のための素材、部材、設備、環境の検討、検証。

椅子に座って机に向かって仕事をする働き方が一般的になったのは約 100 年前、パソコンを使っている働き方は約 40 年前と、現在の働き方の歴史も新しい。今後の新たな働き方の研究を行ってきたい。

(4) 体制

学識者、ゼネコン、ハウスメーカー、設備企業、内装・家具製造業、情報機器・通信機器製造企業、素材製造企業 など